

金星

澤井

2018年春の西空に浮かぶ一番星。宵の明星・金星です。金星の見え方は下表のように変化します。

金星カレンダー(東京天文台調べ)			
番号	内容	日付	備考
0	外合(衝)	2018/1/9	不可視
1	(東方)最大離角	2018/8/18	半月型
2	(内合)合	2018/10/26	不可視
3	(西方)最大離角	2019/1/6	半月型
0	外合(衝)	2019/8/14	不可視

表中

0…2 : 夕方西の空に見える。宵の明星
2…0 : 朝方東の空に見える。明の明星
0付近 : 暗い円形
2付近 : 明るい三日月型
欠ける時は上側から

金星の形の変化は20倍程度以上の望遠鏡で観測可能です。倍率20倍では目が良い人に見える程度、30倍では先ず視野に捉えるのが難しくなりますがほぼすべての人に形が見えます。50倍では望遠鏡の固定に3脚・出来れば天体観測用の赤道儀と自動追尾装置があるといいですね。これよりさらに大きいと地表の気流の影響で像が飛び回ります。高山での早朝観測が良さそうです。

地球の公転軌道が楕円形に対して、金星の公転軌道はほぼ円形で、地球と太陽の平均距離を1とすると地球と金星の距離は最遠1.7、最近0.3と大きく変化します。このため最大輝度-4.7等星と月の次に明るい星になります。

金星は十分明るくコンパクトカメラ程度で意外に簡単に撮影が可能です。ただし、目標が小さいので、カメラに用意してある便利な自動化機能を全部手動に切り替えておく必要があります。遠く小さい物の撮影なので35mm換算で1200程度より長い望遠レンズを選んでください。ブレ防止機能を利用して手持ち撮影もできます。具体的には質問頂ければノウハウを教えます。

右写真は、内合で金星と太陽が完全に重なった金星食です。背景が太陽なので金星の小ささを見てもらえenと思います。なお、この撮影は**失明の危険**があります。

金星の形の変化理由の説明はここでは省略します。

